

# 平成30年度 学校自己評価システムシート（県立岩槻高等学校）

目指す学校像	確かな学力・規律ある生活態度・国際感覚を身につけた生徒を育成し、一人一人の進路希望を実現する、地域に愛される学校
--------	--

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>一人一人を生かす学びの定着（学力の向上を目指して）</li> <li>進路指導の充実（夢の実現を目指して）</li> <li>生徒指導の充実と人権教育の推進（豊かな心の育成を目指して）</li> <li>国際理解教育の推進（国際社会で活躍する生徒の育成を目指して）</li> <li>保護者・地域との連携（信頼される学校を目指して）</li> </ol>
------	--

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。  
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者6名
	生徒 3名
	事務局(教職員)9名

学 校 自 己 評 価						
年 度 目 標				年度評価（1月10日 現在）		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度 次年度への課題と改善策
1	<p><b>[現状]</b> 生徒が朝学習に向かう姿勢も良好であり、落ち着いて授業に取り組んでいる。</p> <p><b>[課題]</b> 授業評価アンケートを活用し、教員の授業力向上・授業改善と生徒の学力向上をさらに図る。</p>	・朝学習を定着させ、生徒が積極的に学習に取り組む習慣を確立する。教員の授業改善と指導力向上を図る。新学習指導要領への対応を計画する。	<ol style="list-style-type: none"> <li>朝学習や週末課題への積極的な取り組みを促し、学習成績の向上を図る。</li> <li>学習リサーチの結果を活用し個別指導を行う。</li> <li>教員の授業力向上のための授業アンケートを実施する。</li> <li>新学習指導要領の導入に向けた検討を進める。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>成績不振者の減少と成績優良者を増加させる。(昨年度比)</li> <li>基礎学力テストのスコア、模試やスタディサポートの成績を向上させる。</li> <li>授業アンケートの効果的な活用方法を検討し実施する。(年間1回以上)</li> <li>校内各組織で連携を図り、新教育課程の作成に向けた検討を行う。(適時)</li> </ol>	目標は概ね達成されている。学力向上は継続した取組が必要である。 <ol style="list-style-type: none"> <li>成績不振者数は15%減、優良者数は前年度並みであった。</li> <li>3年生の模試では(11月実施)、5科目中4科目で平均点の偏差値が前年度より上昇した。</li> <li>授業アンケート実施後(1学期)、結果を各職員の授業改善資料とした。</li> <li>単位数増の検討を含め、基本構想について年度内に作成した。</li> </ol>	A
2	<p><b>[現状]</b> キャリア教育の視点に立った指導が計画的におこなわれている。進路意識は向上している。</p> <p><b>[課題]</b> 進路選択目標を高く持たせ、難関大学などに挑戦する姿勢を育てる。大学入試改革に向けた検討を行い、今年度から実施の獨協大学との連携を活用して、生徒の進路意識の向上を図る。</p>	・キャリア教育の視点に立った進路指導を行う。生徒一人一人が自己の進路実現に向けて学習に取り組む意欲を向上させる。	<ol style="list-style-type: none"> <li>大学入試改革に向け、ICTを活用した外部情報を有効活用し、各学年・各生徒に応じた進路情報の収集を行う。</li> <li>高大連携・講演会・模擬授業や面談などを通じて、生徒の進路意識を向上させる。</li> <li>授業以外に企画された学習の場へ生徒の参加者を増やす。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>大学入試改革に対応するために、1年次でポートフォリオ作成に向けた取り組みや英語4技能に対応した指導を行う。</li> <li>獨協大学との連携プログラムの具体化を進める。計画された進路行事を実施し、3年生進路決定率を向上させる(昨年度比)</li> <li>進学講習、模擬試験、センター試験の受験者を増加させる。(昨年度比)</li> </ol>	継続した進路指導と高大連携の導入などで進路意識への効果を上げつつある。 <ol style="list-style-type: none"> <li>ポートフォリオ作成(1年)、英語4技能スコア型検定(1・2年)を計画通り実施した。</li> <li>進路決定率は84%(昨年度比5%増)である(12月末現在)。高大連携で8名が獨協大学聴講生となった。</li> <li>一般受験43名(3減)をはじめ、いずれも昨年度より減少した。</li> </ol>	B
3	<p><b>[現状]</b> 学校全体で統一した指導が図られている。遅刻・欠席者は少なく、身だしなみの乱れや交通マナー違反も落ち着いている。規範意識も高まり、本校生としての品格も備わってきた。</p> <p><b>[課題]</b> 各教職員や各部署で情報共有を図り、校内の連携がとれたカウンセリング体制を確立し、悩みを抱える生徒への手厚い相談と不登校を減少させる。</p>	・生徒が規範意識を身に付け、さらに品格を高める。悩みを抱える生徒への対応を十分に行う。	<ol style="list-style-type: none"> <li>教職員が共通理解を図り、品格のある行動と身だしなみを生徒に身に付けさせる。</li> <li>基本的な生活習慣の定着を図る指導を行う。</li> <li>交通安全指導を実施し、マナーの向上と交通事故を防止する。</li> <li>スクールカウンセラーの活用や職員間での情報共有を進め、教育相談・生徒指導体制を充実させる。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>学校共通の指導基準で整容指導を実施する。(通年)</li> <li>登下校指導を行い(毎日)、遅刻者数、欠席者数を減少させる。(昨年度比)</li> <li>スクエアード・ストレイト技法(10月)による安全教室と自転車マナーアップ伝達講習を実施する。</li> <li>不登校や転退学者数を減少させる。(昨年度比)</li> </ol>	交通マナーなどの校外行動の指導が十分ではない。 <ol style="list-style-type: none"> <li>全校指導(毎月)で指導の統一が図れた。自動二輪車指導の内規改定をした。</li> <li>登校指導を実施し(毎日)、遅刻者数(19%)欠席者数(29%)は減少した。</li> <li>計画通り実施、重大な交通事故は発生しなかった。</li> <li>減少した(退学4→0、転学12→4)。スクールカウンセラーとの相談者は10人(延べ25回)であった。</li> </ol>	B
4	<p><b>[現状]</b> 海外授業体験等、国際理解教育の事業への参加が定着し、生徒の国際理解への意識も向上してきた。</p> <p><b>[課題]</b> 国際感覚の視点を持たせ国際交流に対応した高い学力を身につけさせる。国際理解教育に関する学校としての取り組みを定着させ積極的に外部へ発信していく。</p>	・国際理解教育の各事業の参加生徒を増やし、学校全体で国際理解教育を定着させる取り組みを行う。	<ol style="list-style-type: none"> <li>海外授業体験への生徒・教員の派遣、海外高校生の訪問や留学生の受け入れを積極的に行う。</li> <li>国際交流や国際文化科の特色ある行事を充実させる。</li> <li>国際理解教育の取り組みを情報発信する。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>海外授業体験への参加者を増加させるとともに(昨年度比)、オーストラリアから高校生を受け入れる。</li> <li>イングリッシュサマーキャンプ(7月)校内スピーチコンテスト(2学期)・異文化理解セミナー(年3回)を実施する。</li> <li>学校HPでの情報発信や中高連携の生徒募集チラシを配布する。(通年)</li> </ol>	新たな企画を取り入れるなど、国際理解教育の効果に期待できる取組となった。 <ol style="list-style-type: none"> <li>オーストラリアとの交流は、参加生徒増加(19→22)、訪日団受入れ(9月、生徒17、教員2名)を行った。</li> <li>新たな企画を含め計画通り実施した。</li> <li>外部機関主催進学説明会等に参加(4回)し、取り組みの情報発信をした。</li> </ol>	A
5	<p><b>[現状]</b> 小高交流事業や地域行事への参加、ボランティア活動が定着し、開かれた学校づくりの意識が高い。</p> <p><b>[課題]</b> 情報提供の方法を工夫し、ボランティア活動に関する生徒の意識をさらに向上させる。</p>	・本校教育活動の多角的な情報発信を通し、保護者や地域住民の理解を深め、地域に愛される高校としての評価を高める。	<ol style="list-style-type: none"> <li>市区主催行事やボランティア活動に生徒・教職員が参加し、地域住民との交流を促進する。</li> <li>学校ホームページの情報発信の充実とPTA組織と連携して学校教育活動の充実を図る。</li> <li>小学校との交流活動を通じて本校の取り組みを発信する。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>岩槻祭り(8月)、地域防災訓練(3月)の参加者数とボランティア活動数を増加させる。</li> <li>閲覧しやすい学校ホームページへの改良を行う。また、学校行事の際は、保護者へ一斉にメール配信を行う。</li> <li>区内3校の小学校と高校の交流(9月)、運動部が区内小学生の指導を行う交流を実施する(2学期)。</li> </ol>	これまでの取組を踏まえて実施できた。 <ol style="list-style-type: none"> <li>市の避難所運営訓練を本校を会場として実施した(12月)。</li> <li>情報化委員会を中心に学校HPとセキュリティー管理の見直しを実施した。</li> <li>昨年度並みに計画通り実施し、新たに、部活動が中心となり校内小学生とのスポーツ交流を実施した(9月の2週間中の複数日)。</li> </ol>	A

学校関係者評価	実施日 平成31年2月15日
学校関係者からの意見・要望・評価等	<p>生徒全体の学力が底上げされ、成績不振者の減少は評価できる。授業見学をして、生徒の学習に対する姿勢が良かった。試験の成績上位者の掲示は、生徒の意欲を向上させる良い取組である。家庭学習の時間が少なく、一般受験が少ないことが課題である。校内模試等に対してやられているという意識を持っている生徒がいるので、自主的に学習できる生徒を増やしてほしい。大人になっても日々勉強であるので、日常の問題の解決法を身につけていくことが大切である。</p> <p>大学が望む高校生像は、課題取組へのプロセスを大切に、自分で考える姿勢を持つ生徒である。生徒は、漠然とした生活をして何をしたいのかわからない、また、受動的な授業で答えを求めたり、定期試験の前に詰め込みの勉強をしている生徒が多い。学習への取り組みとして、早朝、放課後の進学補習に意欲的に参加すべきである。積極的に取り組むことにより、学習に対する意欲が向上すると思う。</p> <p>生徒の登下校に対して地域住民から苦情があるとのことだが、自治会町内会の生徒への評価は良好である。登下校時不審者の声掛け事例が多いので、「ながら見守りボランティア」を自治会で実施している。特に女子生徒は複数で下校してほしい。一部の生徒の迷惑行為を他人事とせず生徒全体で考えるべきである。学校という組織で活動している意識を生徒一人一人が持つべきである。生徒のメンタルの問題はカウンセリングが大切であり、担任が接点となることが重要である。</p> <p>卒業生が外国で活躍していることは、素晴らしいと思う。国際文化科が外国との接点となり、学校全体の関わりとなって広がりを見せていることは評価できる。国際理解教育が、キャリア教育と結びつけることができると更に強固な戦略となると思う。</p> <p>自治会の防災訓練、高校が場所等の提供をしてくれるとともに、生徒40名、教員9名が参加したことは特筆すべきことである。高齢化した町内に高校生がいてくれることは安心感を生む。地元小学校等との交流は評価できる。これからも地元との交流をさらに深めてほしい。目白大学や自治会とも協力し、AED講習会などの地域貢献活動を一緒に実施してほしい。</p>